

学道一如

発行
小樽双葉高校
生徒会通信
2025年6月9日
第13号

作曲家がお墨付き 吹奏楽部演奏がYouTubeに

メタモルフォーゼ

～吹奏楽による交響的変容（小編成版）

Symphonic Transfiguration by Wind Orchestra "Metamorphose"

小樽双葉高等学校吹奏楽部

内藤友樹 作曲

Comp. by Yuki Naito

楽譜出版

Naito Music

5月28日、吹奏楽部の昨年度のコンクール時の演奏がユーチューブにアップされた。作曲者の内藤友樹さんの作るナイトウミュージックのサイトにある。内藤さんが本校の演奏を聴いて、とても気に入られ、世界に紹介されることになった。

ユーチューブのこの画面を探そう。

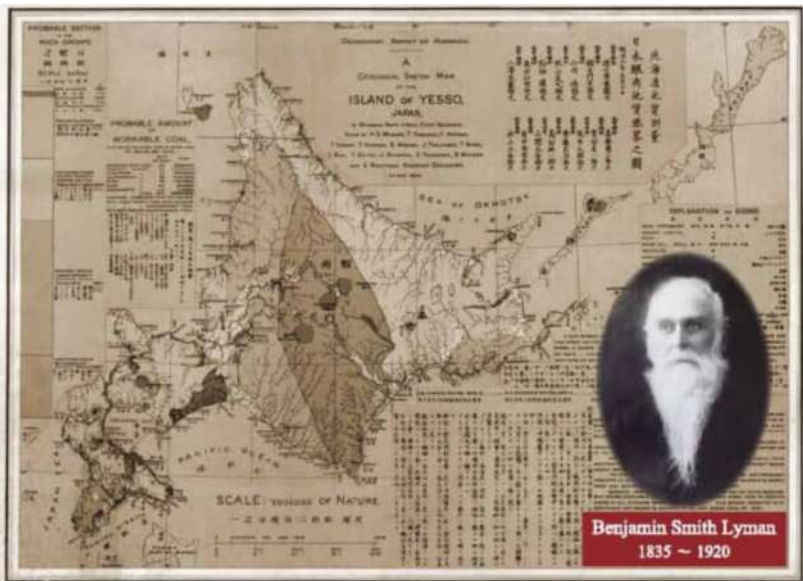
お聴き下さい

劇的な展開、華やかな余韻

内藤友樹作曲《メタモルフォーゼ～吹奏楽による交響的変容（小編成版）》Comp. by Yuki Naito / Symphonic Transfiguration by Wind Orchestra "Metamorphose"

小樽双葉高等学校吹奏楽部演奏

緊迫した和音が静けさを打ち破る冒頭。ティンパニのソロを挟み金管楽器が二分音符で淡々と演奏する中、木管楽器の細かいスケールが音の流れを形成します。ホルンで始まる中盤。冒頭のモチーフが展開され激しさを増す一方、ジャズの和音を用いた旋律が穏やかな時を演出します。そして、速いテンポで凌ぎ合う旋律の中で研ぎ澄まされた音は、時間をかけ確実に成長していきます。サクソスが優しく語りかける終盤。幾度となく提示と再現を繰り返した主題がついに長調へと導かれます。ピッコロの軽やかなオブリガートを受け、トゥッティで華やかに演奏されます。成熟した音は次の変容を期待させながら堂々と終わります。



日本蝦夷地質要略之図【明治9（1876）年5月10日刊行】 北海道大学付属図書館蔵

空知の炭鉱、室蘭の鉄鋼、小樽の港湾、それらを結ぶ鉄道で構成される日本遺産「炭鉄港」のルーツを考える講演会が5月25日、北海道大学総合博物館で開催された。在田一則氏（北海道自然保護協会会長）と松田義章氏（北海道総合地質学研究センター理事）がライマン（写真上）らの功績を解説した。

「地質の日」記念講演会
日本遺産「炭鉄港」成立のルーツ探る
米国人ライマン、榎本武揚の功績



識をを活かし開拓使として活躍した。小樽の発展に大きく寄与し、空知管内の炭田の地質が優良であることを早期に見出していた。

後、オランダ留学の知識を、特赦で出獄後、オランダ留学の知識を、

榎本武揚（幕末の幕臣、明治時代の政治家、左写真）は、箱館戦争で敗北、収監されていたが、特赦で出獄後、オランダ留学の知識を、

開拓使の「お雇い外国人」ライマンは北海道を3年間調査し、1876年5月10日、日本初の本格的な地質図「日本蝦夷地質要略之図」（上写真）を出版した。地質の日はこれに因んでいる。ライマンは11名の弟子に測量技術や地質調査方法などを伝授し、弟子たちはその後日本各地でその技術を利用、発展させ、各地区炭田などを調査したことを在田氏は説明した。「ライマンは非常に高い能力で超人的な仕事をした」と評価する。